

4

学生主体の取り組み

Topics 学生主体で行う「標準化教室」

2010年12月、環境ISO学生委員会が、学生主体で「標準化教室」を実施しました。「標準化教室」とは規格や標準の意義について小中学生に教える取り組みです。学生委員会が経済産業省・日本規格協会と教室の内容について打ち合わせを行い、2010年度は総合学習の一環として以下の2つの小中学校で授業が実施されました。学生委員会が行う授業の特色は、数ある標準の中でも環境に関する標準である「エコマーク」や「グリーンマーク」などの環境ラベルの紹介に焦点を当てている点です。

「木更津市立木更津第一小学校」

2010年12月20日、小学6年生約70人を半分に分け、ワークショップやパワーポイントを使用した授業を行いました。数多くの製品のパッケージを使って、環境にやさしい買い物について一緒に考えました。環境ラベルを探し出し、その意味について考える児童の姿勢は真剣そのものでした。

この出前授業の様子は千葉日報に掲載され、社会的に注目を受けています。



標準化教室の様子①

「袖ヶ浦市立長浦中学校」

2010年12月14日、中学1年生約100人を対象に同校の体育館で、講義を行いました。紙芝居や動画を利用することで、標準・標準化という概念を生徒たちが視覚的に理解できるよう工夫しました。

初めて聞く「カーボンフットプリント」の付いた製品のパッケージを手にとり、目を輝かせていた生徒たちの様子が印象的でした。本授業内容が同校の家庭科や社会科の授業につながっていくそうで、更なる学習への深化が期待されます。



標準化教室の様子②

児童・生徒の声(アンケートより)

- 実際の商品を使ってクイズ形式で一つ一つ詳しく教えてくれたので、とても分かりやすく、楽しめた。(木更津第一小児童)
- 今回の授業で今まで知らなかったマークのことなどがわかって良かった。はじめ難しい印象を受けたけど、画像や絵のおかげでとてもわかりやすかった。(長浦中生徒)
- 今までマークなどを見てもあまり気にしなかったけど、授業を通じてそれぞれのマークが持つ意味を知ることができ、自分の身のまわりにあるものにもマークがついているのが気になるようになった。(長浦中生徒)

環境 I S O 学生委員会の単位化



千葉大学では、学生が主体的に環境マネジメントシステム (EMS) の構築・運用を行っており、その取り組みの中核は環境 I S O 学生委員会が担っています。これは、教育機関である千葉大学から EMS に関する専門的な知識や経験を持った学生を社会に送り出すことを目的としています。

環境 I S O 学生委員会とは

環境 I S O 学生委員会は、千葉大学の EMS 運用において、教職員と同じ構成員という立場で主体的に参加を行う学生団体です。委員会は「環境マネジメントシステム実習 I ~ III」という授業を受講中、もしくは既習した学生が中心になって構成されています。西千葉地区、松戸・柏の葉地区、亥鼻地区の3地区に分かれて活動しており、計 241 名 (2010 年 12 月現在) の学生が所属しています。



西千葉地区学生委員会の学生たち

学生主体を実現する単位化システム

千葉大学は教育機関として環境マネジメントを担う人材の育成を行うという観点から、学生による環境 I S O 活動を単位化しています。法経学部総合政策学科・園芸学部緑地環境学科の学生には専門科目、その他の全学部の学生には普遍教育科目として「環境マネジメントシステム実習 I ~ III」を開講し、座学と実務の双方から、環境 I S O に関する専門的な知識を学ぶ機会を提供しています。また、3 年間継続して環境 I S O 活動に携わった学生を「環境マネジメント実務士」として認定しています。このような仕組みにより、より実務的な能力を持った人材の育成と持続的な EMS の運用を図っています。「環境マネジメント実務士」については、2010 年度は 30 名を認定し、累計 170 名の学生に授与がなされました。

環境マネジメントシステム実習 I

主に 1 年生を対象としています。EMS の基礎知識に関する講義や、EMS 実務を行うために必要な各種研修を行います。また、環境 I S O 活動への参加を行い、環境 I S O 事務局の実務を実習します。



環境マネジメントシステム実習 II

実習 I の単位を取得した学生を対象としています。基礎研修講師や内部監査員を務めるなど、環境 I S O 事務局と連携して、EMS の実務活動により中心的に関わっていきます。



環境マネジメントシステム実習 III

実習 II の単位を取得した学生を対象とするインターンシッププログラムです。学内の EMS 運用で培った知識を基に官公庁や企業に赴き、学外で運用されている EMS を学ぶことを目的としています。



環境マネジメント実務士

EMS に関する知識や能力を持つ学生であることを対外的にも示す学内資格です。実習 II の単位を取得後 1 年以上、千葉大学の環境 I S O 活動に主体的に携わった学生に対して与えられます。

各地区の特色を生かした委員会活動

環境ISO学生委員会は、西千葉地区、松戸・柏の葉地区、亥鼻地区の3キャンパスにそれぞれ活動拠点を持ち、分かれて活動をしています。

西千葉地区環境ISO学生委員会

西千葉地区環境ISO学生委員会は、3地区の中で最も多くの学生が約200人が所属しています。千葉大学の全ての学部・学年の学生が各々の関心や興味、培った技量に応じた活動に参加しています。西千葉地区学生委員会の特色はその活動の幅広さです。

活動範囲は、省エネ・省資源や構内緑化から自転車利用、留学生への対応やEMSに関する勉強会などがあります。このように活動を幅広く展開し、個々の活動が継続的に発展していった結果として、複数分野の活動が結び付き、新たな活動に発展しています。例えば、花壇の整備を生徒とともに行うといった活動は、附属学校への環境教育と構内の緑化活動が連携することによって実現しました。また、学生委員会は3地区が合同して2009年度にNPO法人格を取得し、現在は事務所の置かれている西千葉地区を中心に活動しています。今後は、3地区が連携してNPO事業の展開を進めることが求められています。また、他2地区の専門性を還元し、3地区の間で有機的な活動の発展を進めていくことが、西千葉地区の今後の課題です。



松戸地区 昆虫教室の様子

松戸地区環境ISO学生委員会

松戸地区では、毎年8月上旬に園芸学部の応用昆虫学研究室と合同で、地域の小学生を対象にした昆虫教室を開催しています。2010年度は約20名の子供たちが参加し、昆虫採集をしたり、応用昆虫学研究室の教授の話の聞いたりしました。これは、園芸学部の緑豊かなキャンパスと、環境に関連した研究を行っている大学の特色を生かした活動です。この教室に参加した子供たちが昆虫や様々な生物が生きていくためにはどのような環境が必要かを考え、環境問題に関心を持つきっかけになればと思います。

また、松戸地区ではFD(教授会)に学生が参加し、教職員に対して学生がISO14001に関わる基礎研修を実施しています。また、学生が日頃行っている環境活動について紹介し、教職員との共有を図っています。このような取り組みが、昆虫教室を始めとする、学生と教職員が一体となった活動の支えになっています。

亥鼻地区環境ISO学生委員会

亥鼻地区学生委員会は西千葉地区と比べて人数が少なく、活動内容はほとんど西千葉の活動に準じています。今後は今までアンケート等でとったデータをもとに亥鼻地区独自の新たな活動を進めていく予定です。他地区ではできない、少人数だからこそできる活動を推し進めて、亥鼻キャンパスの環境を改善しています。



各地区の委員長からのコメント

西千葉地区委員長 高橋 和幸 (法経学部経済学科4年)

2010 年度は千葉大学が ISO14001 を取得してから 6 年が経ち、2 度目の認証の更新という節目を迎えることが出来ました。また、第 9 回日本環境経営大賞で環境経営部門の最優秀賞を受賞し、環境への地道な活動が高く評価されたことを大変嬉しく思っています。

さて、私たち環境 ISO 学生委員会は NPO 法人の立ち上げからも 2 年が経ち、活動の幅を広げています。2010 年度は標準化教室等の環境教育事業、環境報告書への第三者意見の執筆など多くの事業を実施しました。

今年は未曾有の大震災が日本を襲いましたが、こんな時だからこそ、私達にできることは何かを考え、今出来ることを精一杯していきたいと思っています。また、学生委員会が活動出来ているのは、私達の活動に関わる全ての人のご理解とご協力があるものです。これからも感謝の気持ちを忘れずに、一人ひとりが「人を思いやり、自主的に考え、他者から学ぶ」ことを大事にし、環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり及び環境 ISO 活動の継続的改善に貢献して参ります。



高橋 和幸

松戸・柏の葉地区委員長 黒沼 尊紀 (園芸学部緑地環境学科4年)

松戸・柏の葉地区学生委員会が継続してきた特徴的な活動として、堆肥化・緑化活動など園芸学部の特色を活かした活動が挙げられます。2010 年度はそれらの活動に加え、大学の環境マネジメントの主たる課題についても成果を残すことができたのではないのでしょうか。具体的には、キャンパス整備（放

置自転車・受動喫煙の防止）や省エネ・省資源に関する学部への提案等が挙げられます。これらの活動は教職員と協力することにより、より大きな発信力・実行力を伴った活動となりました。そして過去の委員会活動以上に、キャンパス全体の環境改善に貢献できたと感じております。このように私たちは、多くの関係者と力をあわせ、自らの可能性を大きくしながら活動を実現してきています。今後、後輩たちには、「大学および地域社会にとってさらに有益な存在となるよう、成果を重ねて行って欲しい。そうすることで、自らの力量や可能性をさらに伸ばして行って欲しい」というような思いがあります。



黒沼 尊紀

亥鼻地区委員長 岩田 耕生 (医学部医学科4年)

亥鼻地区環境 ISO 学生委員会は、2010 年度メンバー 3 名で活動しました。イベントや日常の委員会活動は、他キャンパスの学生委員会メンバーや教職員、事務員の方々の多大な応援をいただいで成立しています。専門必修科目が多く、カリキュラムが過密な学部が集まる亥鼻キャンパスでは、学生委員会のメンバー確保が困難な要素があります。

2010 年度は省エネイベントでクリアファイル配布、亥鼻祭でごみ分別の推進や割り箸回収などを行いました。こうした活動を通じて、亥鼻地区にも環境 ISO 学生委員会メンバーがいて活動を行っていることを周知することにより、亥鼻キャンパスの構成員に環境活動への意識向上につながればと思っています。欲を言えば、もっと亥鼻地区のメンバーが増えてさまざまな活動ができるとよいですね。



岩田 耕生

NPO法人としての取り組み

千葉大学におけるEMSの運用を主体的に行ってきた環境ISO学生委員会が、活動の幅をさらに広げていくことを目的として、2009年4月にNPO法人格を取得しました。

企業との取り組み —環境配慮型製品を通じた意識啓発— 実務教育の進展

千葉大学において学生主体のEMSが導入されてから5年が経過し、環境ISO学生委員会の活動は、学内のEMS運用だけではなく、学外における取り組みも積極的に行われるようになりました。この過程で培った知識を地域社会に還元し、主体的な活動を継続的に拡大していくため、2009年4月、環境ISO学生委員会はNPO法人格を取得しました。

NPO法人は、理事長をはじめすべての役員を学生が務めるほか、事業活動に必要な手続きを学生自身で行うなど、これまで以上の実務経験を学生に与える実習の場となっています。また、環境ISO学生委員会の顧問であり、NPO法人のアドバイザーである法経学部倉阪教授の下で助言を受け、環境報告書への提言事業や環境啓発イベントの主催といった活動を主体的に行うことで、新たな知識や能力を身に付ける機会になっています。

ここでは、NPO法人が行った事業のうち、昨年度より始動した新たな事業について紹介します。

エコライフプロジェクト

2011年1月19～21日の3日間、千葉大学西千葉キャンパス生協ライフセンター前にて、学生の環境意識向上を目的として「エコライフプロジェクト」と称したイベントを実施しました。このイベントは、協力企業から環境に配慮された製品を提供していただき、それを学生に配布するものです。イベントに参加した学生が、今後製品を購入する際に品質や値段だけではなく、「より環境負荷が低いこと」を基準に製品を選んでくれるようになることを目指したものです。

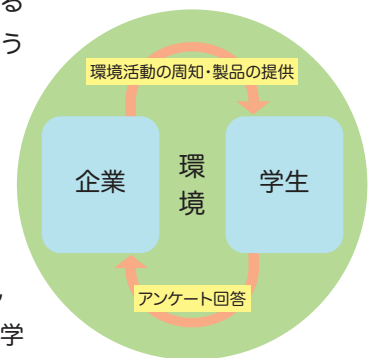
このイベントは、「環境」をキーワードに企業と学生をつなぐという今までにない試みです。学生は

アンケートに答えるだけで製品をもらうことができ、企業はアンケートを通して製品や会社に対する学生層のニーズ調査が可能で、日々取り組んでいる環境活動を学生に周知することが

でき、学生にとっても企業にとってもメリットの大きいイベントです。また、イベント内では企業の環境活動とともに千葉大学の環境活動の紹介も行われ、大学の推奨する両面印刷やミックス古紙を学生に周知する機会となりました。

イベントには3日間で400人以上の学生が参加しました。学生は皆、説明に真剣に耳を傾けており、「企業がこんな環境活動をしているなんて知らなかった」「両面印刷するようにしたい」というような好意的な声が多く聞かれました。

千葉大学の環境をより良くしていくためには、学生の協力が不可欠です。学生の環境に対する意識啓発の手法は課題の1つでしたが、このイベントはその手法として新たな道を切り開くものとなりました。



アンケートに答える学生の様子

学生による自発的な環境活動



千葉大学では、サークル活動や大学祭等において学生が主体的な環境活動を行っており、これらの活動は千葉大学の EMS の中でも重要な一角として位置づけられています。

サークル・団体の活動

千葉大学には環境・自然系の 6 つの公認サークル (Sun&Co.(サン・アンド・コー)、自然保護研究会、植物同好会、マツコ、MCY-松戸キャンパスを良くする会、再転車(りてんしゃ)活用委員会) が存在しています。また、千葉大学生協学生委員会 (JCK) も内部に環境平和委員会を設置し、独自の環境活動を展開しています。

千葉大学の EMS としては、これらの団体の活動情報を環境 ISO 学生委員会のホームページに掲載することで、対外発信・活動支援を図っています。

URL:http://env.chiba-univ.net/nishichiba/info_circle.html

Sun&Co.

学内キャンドルナイトの主催や学外イベントへの出展など、学内外で環境啓発・発信を行うとともに、畑や勉強会等を通じてメンバーの意欲・知識の向上も図っています。



畑、開墾

千葉大学生協学生委員会 (JCK)

大学生協と学生とをつなぐ立場で活動している団体です。生協が使用している「リ・リパック」というリサイクルできる環境配慮型容器の回収など、様々な環境活動を行っています。



リ・リパック

植物同好会

勉強会等を通じて植物や自然に関する知識を深め、花壇や畑を活用しながら緑を育む活動をしています。また、学内の一部の花壇整備を委託され、デザインから管理までを請け負っています。



北門の畑にて

再転車活用委員会

学内で大量に廃棄される放置自転車を有効活用するため、不要自転車を回収・整備・貸出して再利用するシステムを運用しています。



放置から再転車へ

大学祭における環境対策の取り組み

毎年秋に各キャンパスで行われる大学祭は、来場者数およそ 1 万人を数え、多くの飲食店が軒を連ねます。こうした大イベントの環境影響は甚大であることから、大学祭実行委員会、Sun&Co.、自然保護研究会、環境 ISO 学生委員会等が協力して環境対策会議を組織しています (西千葉地区の例)。

2010 年度は昨年度に引き続きごみの 10 分別を行うとともに、西千葉地区では「ミックス古紙」の普及を促進しました。ごみの分別・処理では各キャンパスとも経年的な改善がなされており、効果が上がってきています。

また、出展団体には環境配慮型容器の使用とごみ分別指導への従事を義務付けるとともに、一般参加者へもパンフレットやポスター等で環境への配慮を訴えました。このように、意識と資源の両面から環境影響の軽減に挑戦していることが千葉大学の特長といえます。